

ヴァレオ、モービルアイと新たな自動運転車の安全性評価基準の開発に合意

2019年1月8日ラスベガス – ヴァレオは1月8日、ラスベガスで開催されているCES 2019において、モービルアイの数理安全モデル Responsibility-Sensitive Safety (RSS) に基づく新しい自動運転車 (AV) 安全規格の自動車業界内の普及を目指して、同社とこの開発と推進に関するパートナーシップ契約を締結しました。

「自動運転車、特にセンサーと車両認識システムに関する確かな専門知識と経験をもち、安全性を最優先に掲げるヴァレオは、自動運転車の安全基準の最高レベルを達成することを目指して、RSS をサポートし、協力します」と、ジャック・アシェンブロワ会長兼最高経営責任者は強調しました。

RSS は、自動運転車の安全性に関する業界標準の定義を作成する上で技術的に中立な起点です。RSS は、論理的に実証可能なルールと定義された回答を使用して、検証可能なモデル内で安全運転の人間の概念を数式化したものです。このモデルは、安全性を教えるために何百万キロもの運転履歴を用いなくても、安全についての定義を行います。

自動車業界では、自動運転車の安全性に関する強力で透明性が高く技術的に中立な規格の必要性がますます高まっています。自動運転の主要企業は、自動運転用の初のオープンソース開発プラットフォームである Baidu (百度) の Apollo (阿波羅) プロジェクトのような RSS モデルの採用が徐々に始まっています (ヴァレオもすでに参加しています)。政府も自動車業界も、RSS 規格を自動運転車の安全性の重要なモデルとして認識しています。

ヴァレオとモービルアイは、欧州、米国、中国で RSS モデルの技術標準の採用を促進するために必要なポリシーと技術を共同で開発します。このパートナーシップには、安全な自動運転車の検証と商用展開のためのフレームワークの原案作り、RSS モデルに関する公的研究への資金提供、規格草案の作成、および主要な作業部会や専門の標準化団体などへの参加が含まれます。

ヴァレオは、カメラ、レーダー、超音波センサーに加え、自動車への搭載で要求される堅牢さを備え現在唯一量産されているレーザースキャナー・ヴァレオ SCALA™ をもつ業界で最も幅広いセンサー群を揃えた認識システムの世界的リーダーとしての専門知識によって貢献します。

このようなノウハウにより、ヴァレオはすでにパリで市街地という大変複雑な環境での自動運転車の走行デモを実施したほか、欧州、米国、日本一周など高速道路でのツアーなどを成功させてきました。

この提携は、自動車業界、電気通信業界および家電業界のプレーヤーなどとともに将来のモビリティのためのエコシステムを構築するというヴァレオのアプローチに則ったものです。

モービルアイについて: インテル傘下のモービルアイは、ビジョンセーフティ技術によって道路の安全性を高め、渋滞を軽減し、生命を救うことを目指して 1999 年に設立されました。450 名以上のエンジニアを擁する最先端のチームであるモービルアイは、EyeQ® Mobileye という独自のコンピュータチップによる一連のソフトウェア製品を開発し、27 社の OEM パートナーの ADAS (運転支援) や完全自動運転車のシステム開発をサポートしています。2017 年、インテル社はモービルアイを買収しました。

自動車部品サプライヤーであるヴァレオは、世界の全自動車メーカーのパートナーです。高い技術力を持つヴァレオは、CO₂ 排出量の削減と直観的なドライビングの発展に貢献する革新的な製品とシステムを提供します。2017 年度のヴァレオグループの売上高は 186 億ユーロであり、OEM 売上の 12% を研究開発に投資しました。ヴァレオは、33 カ国に 184 カ所の工場、20 カ所の研究センター、35 カ所の開発センター、15 カ所の物流センターを構え、約 111,600 人の従業員を擁しています (2017 年 12 月 31 日現在)。ヴァレオはパリ証券取引所に上場しており、CAC40 指数に採用されています。

本件に関するお問合せ先:

株式会社ヴァレオジャパン 広報

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町 30-13

グラスシティ元代々木 7 階

Tel: 03-5465-5710 (代表) Fax: 03-5465-5720

WEB サイト: <http://www.valeo.co.jp/>